



令和7年度 高校生の生活状況アンケート (ヤングケアラー実態調査)

調査結果報告書

【対象：松戸市内高校2年生】

令和8年3月31日
松戸市こども家庭センター

【令和7年度 ヤングケアラー実態調査】

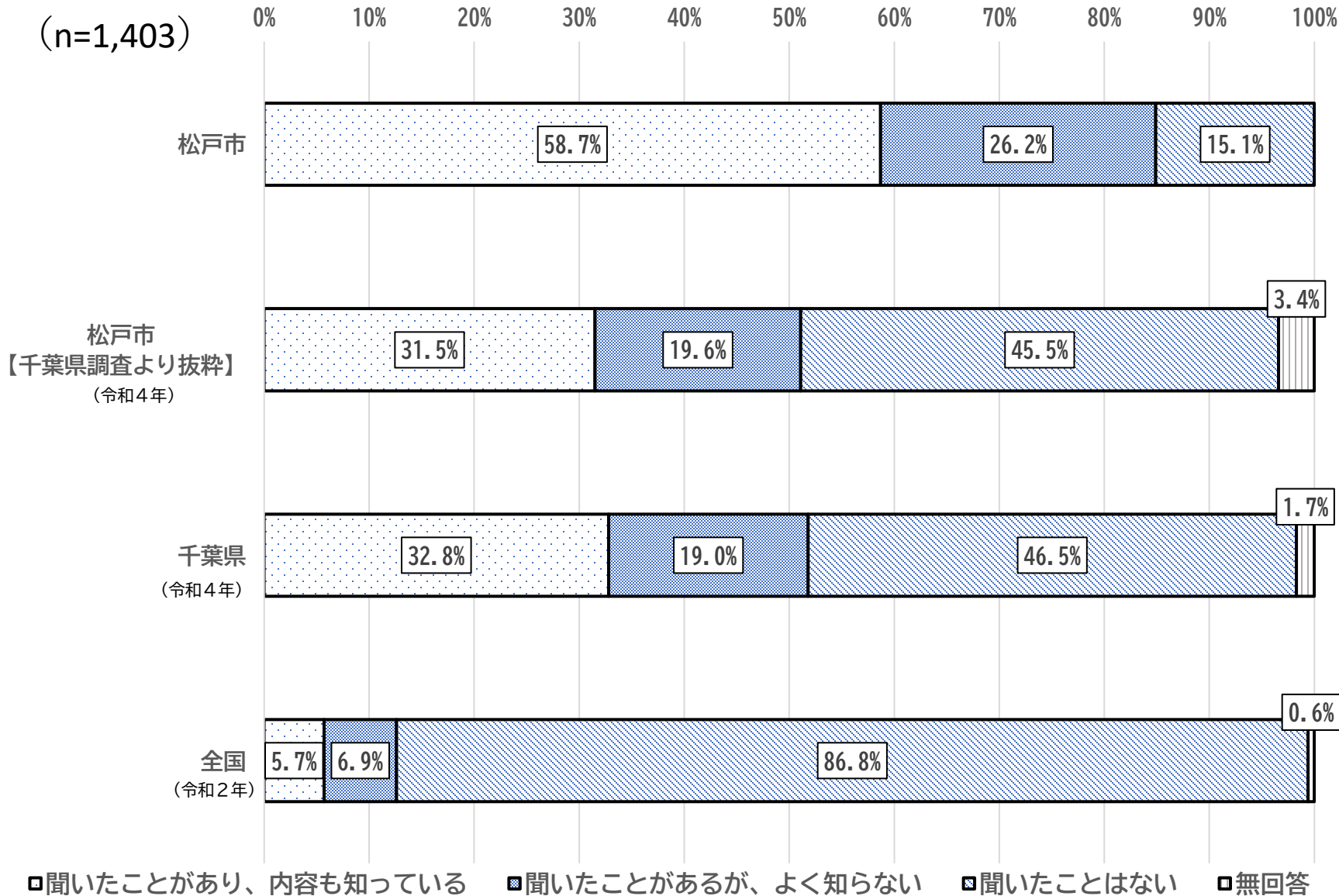
調査目的	松戸市内の高校2年生におけるヤングケアラーの実態を把握するとともに、以前の調査結果と比較し、今後の支援策を検討する際の参考とする。
調査対象	松戸市内高等学校の2年生全員：2,862人（全10校）
調査方法	・郵送にて、学校長あて文書と生徒・保護者あて依頼文を各学校に送付した。その後学校経由で生徒に対し、生徒・保護者あて依頼文を配付。 ・依頼文には、調査の趣旨・概要、調査票のURL・QRコード等を記載し、ウェブ上で回答。
実施時期	2025年11月5日（水）～11月28日（金）（一部12月31日まで）
回答状況	松戸市内高等学校の2年生：1,403件（回収率：49.0%）
調査内容	家庭や家族のことについて、ヤングケアラーについて

○アンケート調査回答率

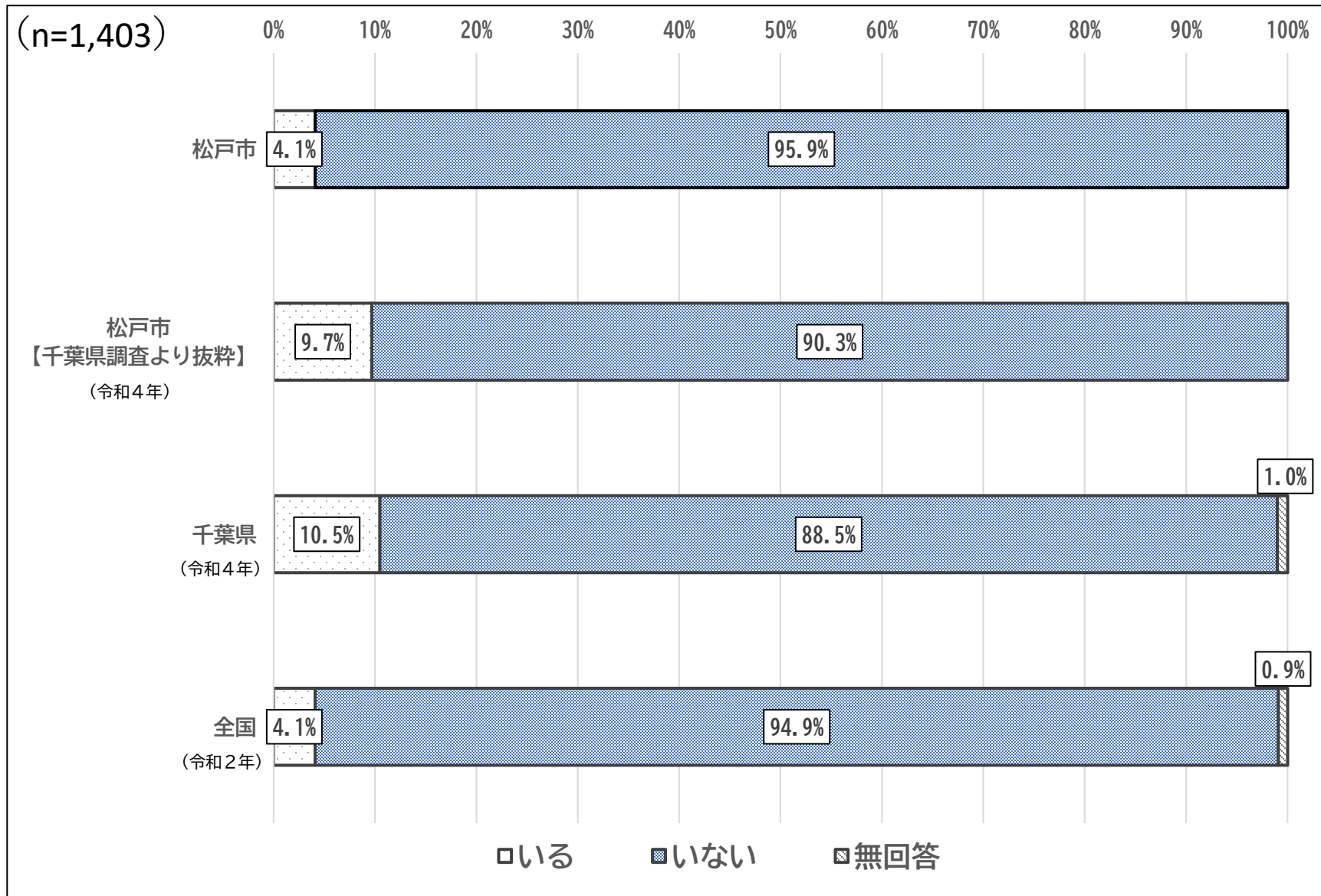
	生徒数	回答数	回答率
全体	2,862	1,403	49.0%

問1. ヤングケアラーという言葉をこれまで聞いたことがありましたか。

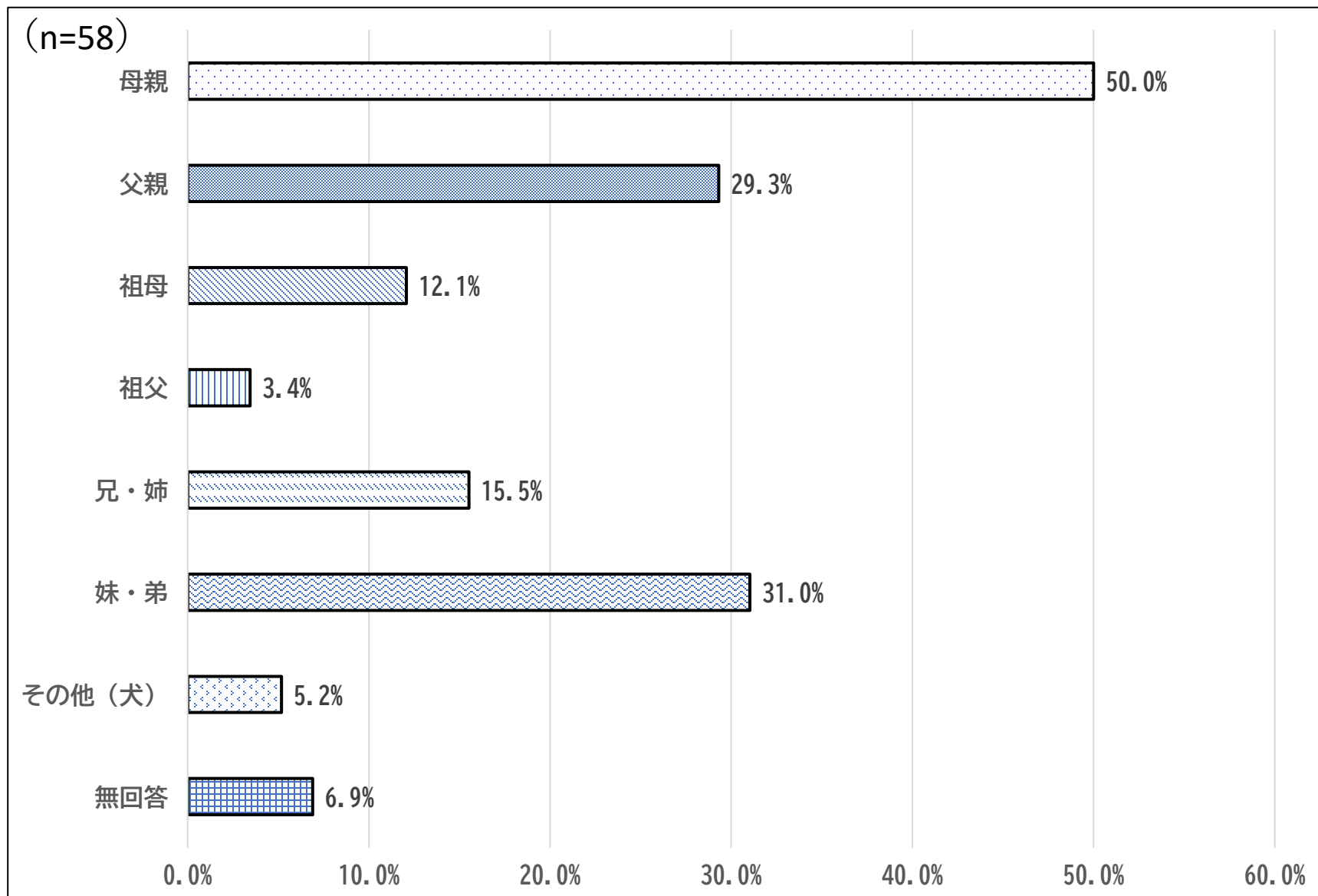
(n=1,403)



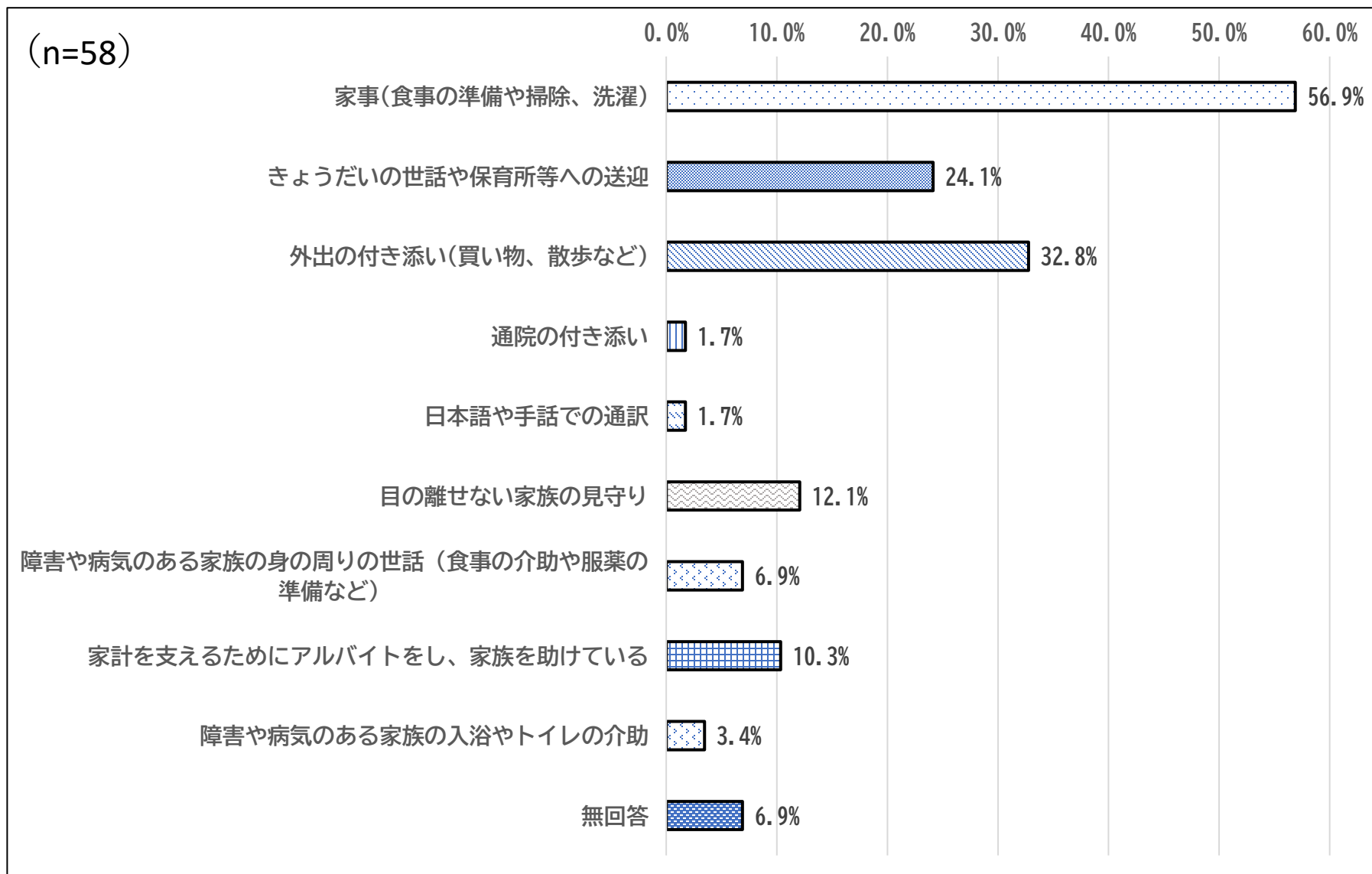
問2. 家族の中にあなたが「お世話」をしている人がいますか。



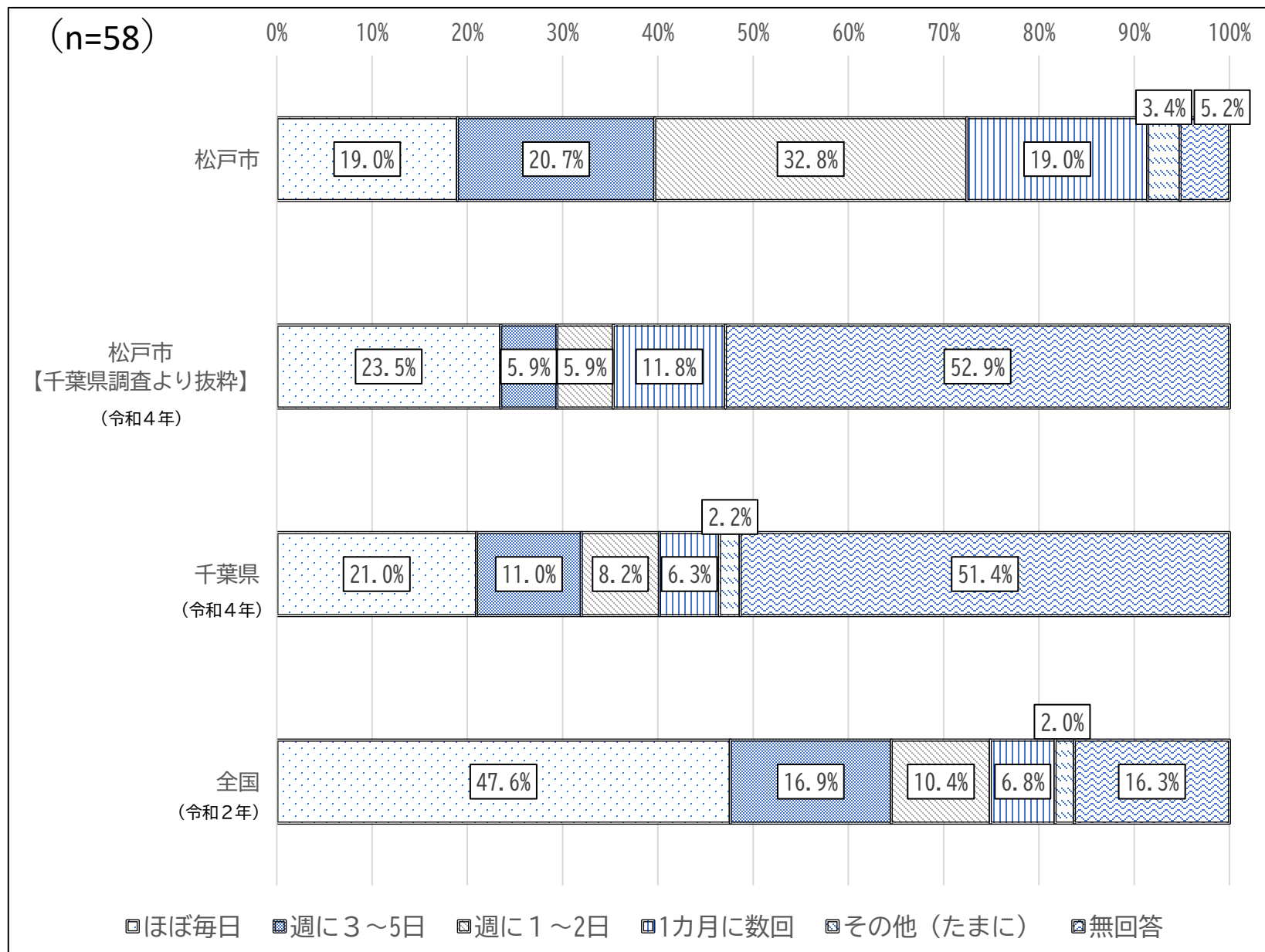
問3. それはどなたですか。（複数回答）



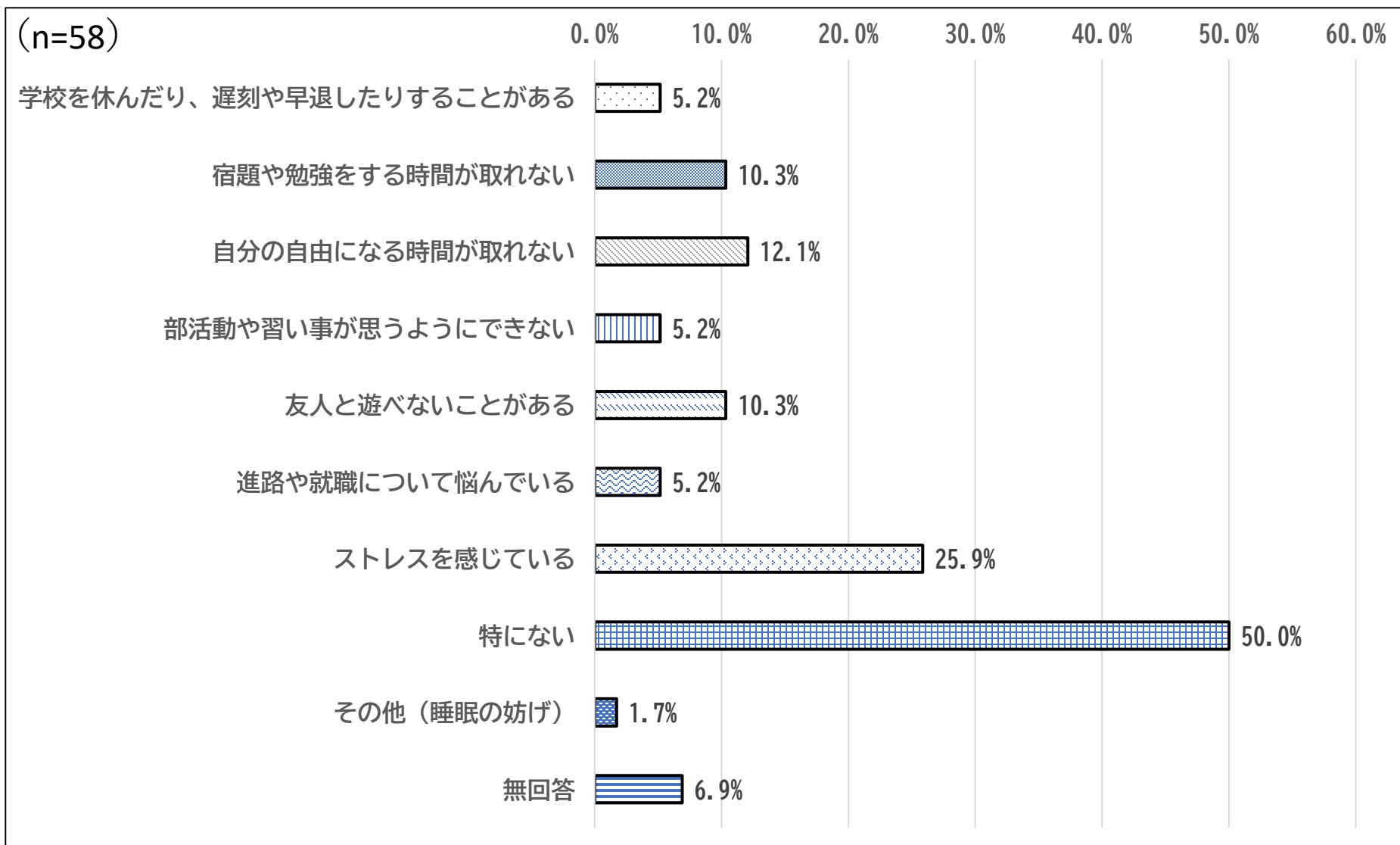
問4. あなたは、どのようなお世話をしていますか。（複数回答）



問5. あなたがお世話をしている頻度について教えてください。

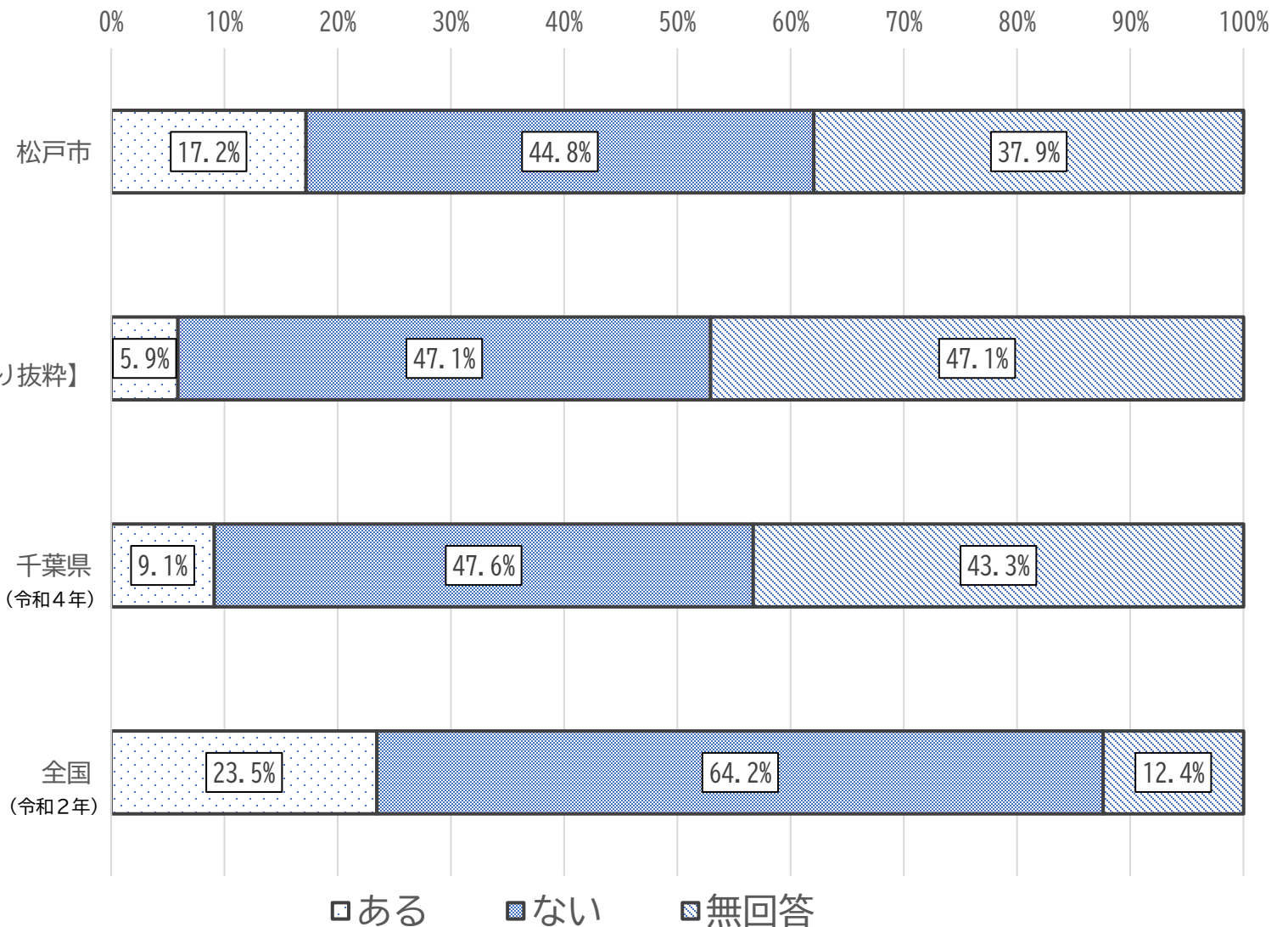


問6. 家族のお世話をすることで困っていることや悩みはありますか。（複数回答）

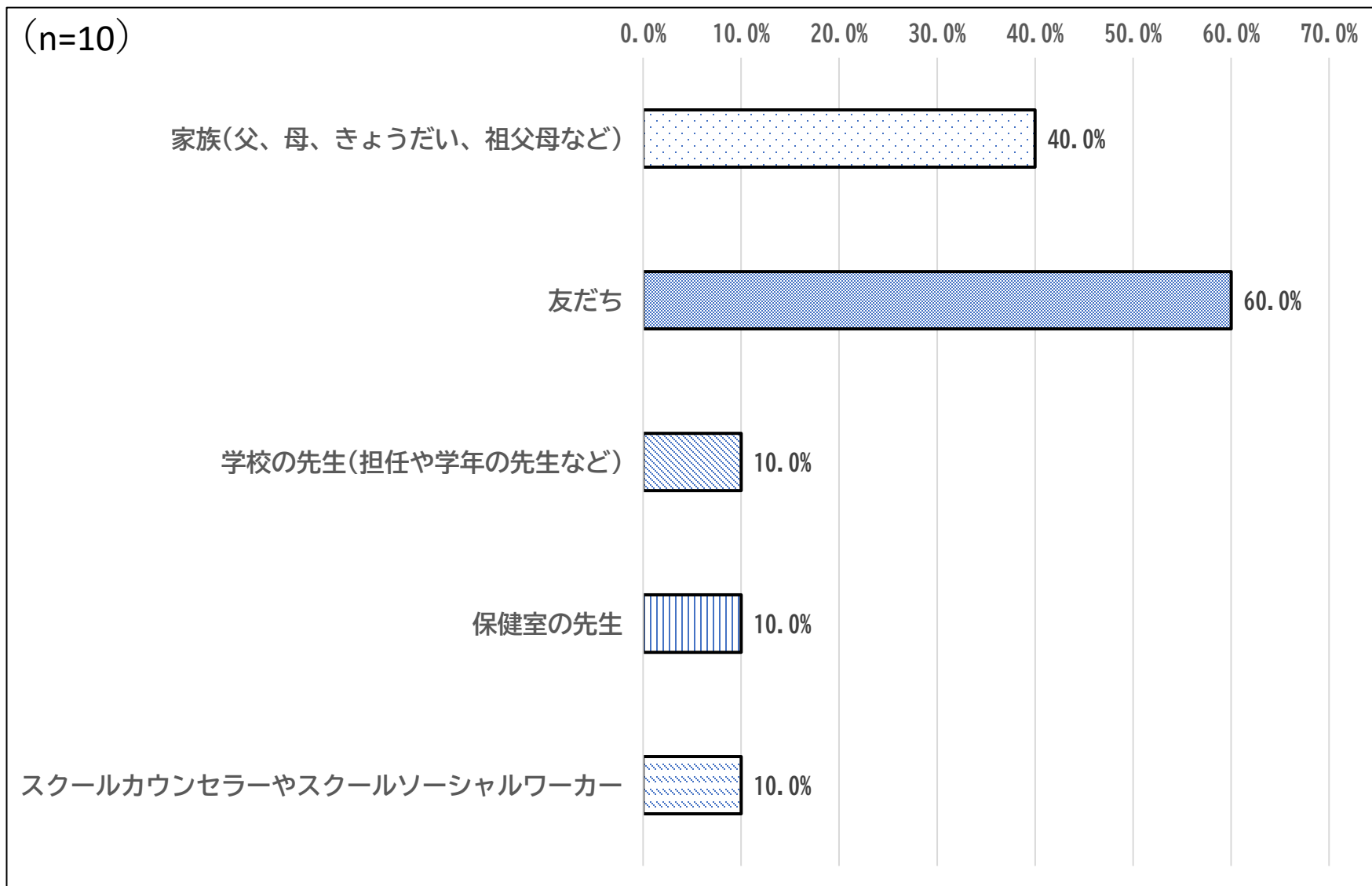


問7. あなたがお世話している家族のことや 悩みを誰かに相談したことがありますか。

(n=58)

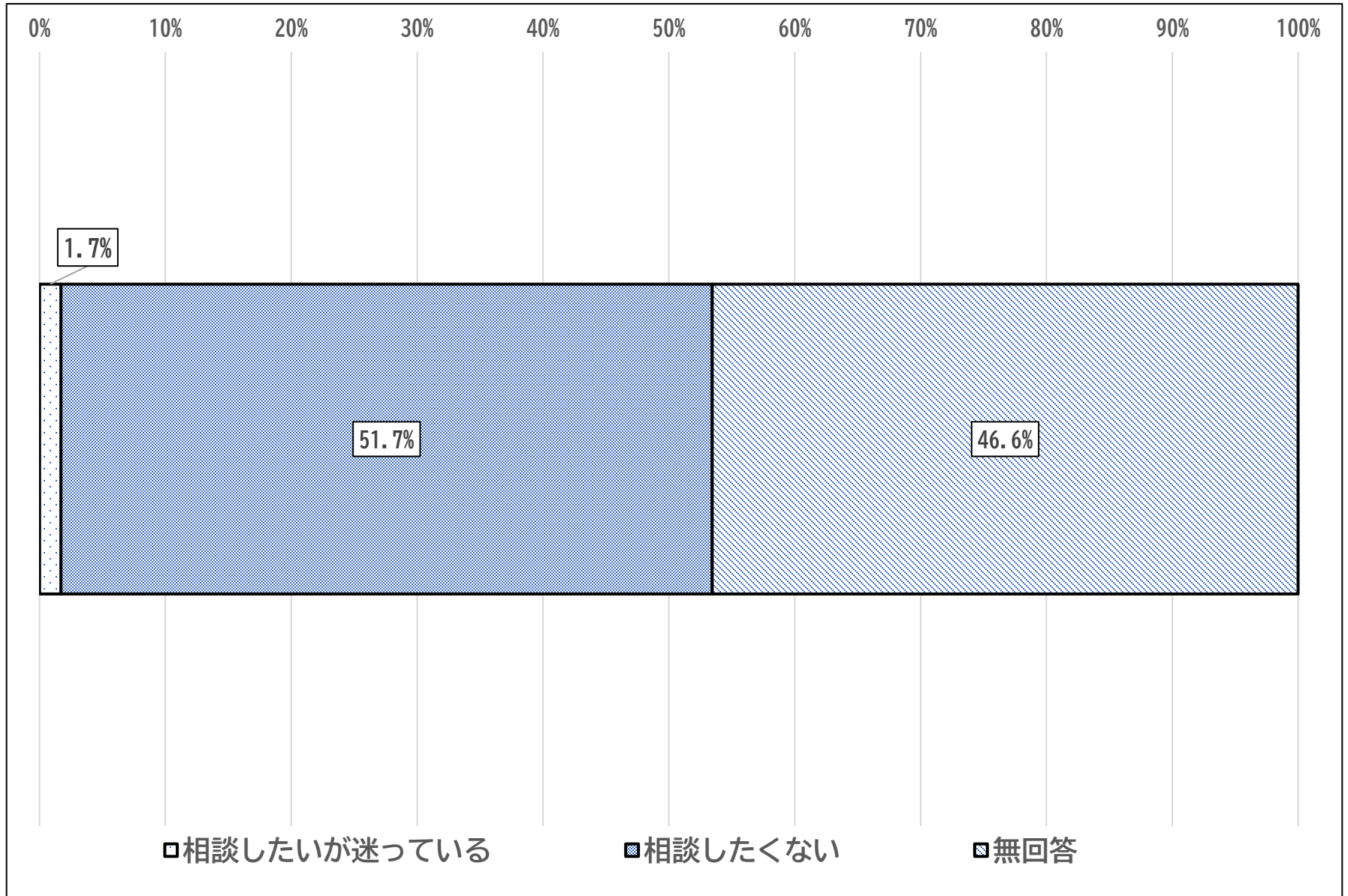


問8. 誰に相談しましたか。(複数回答)

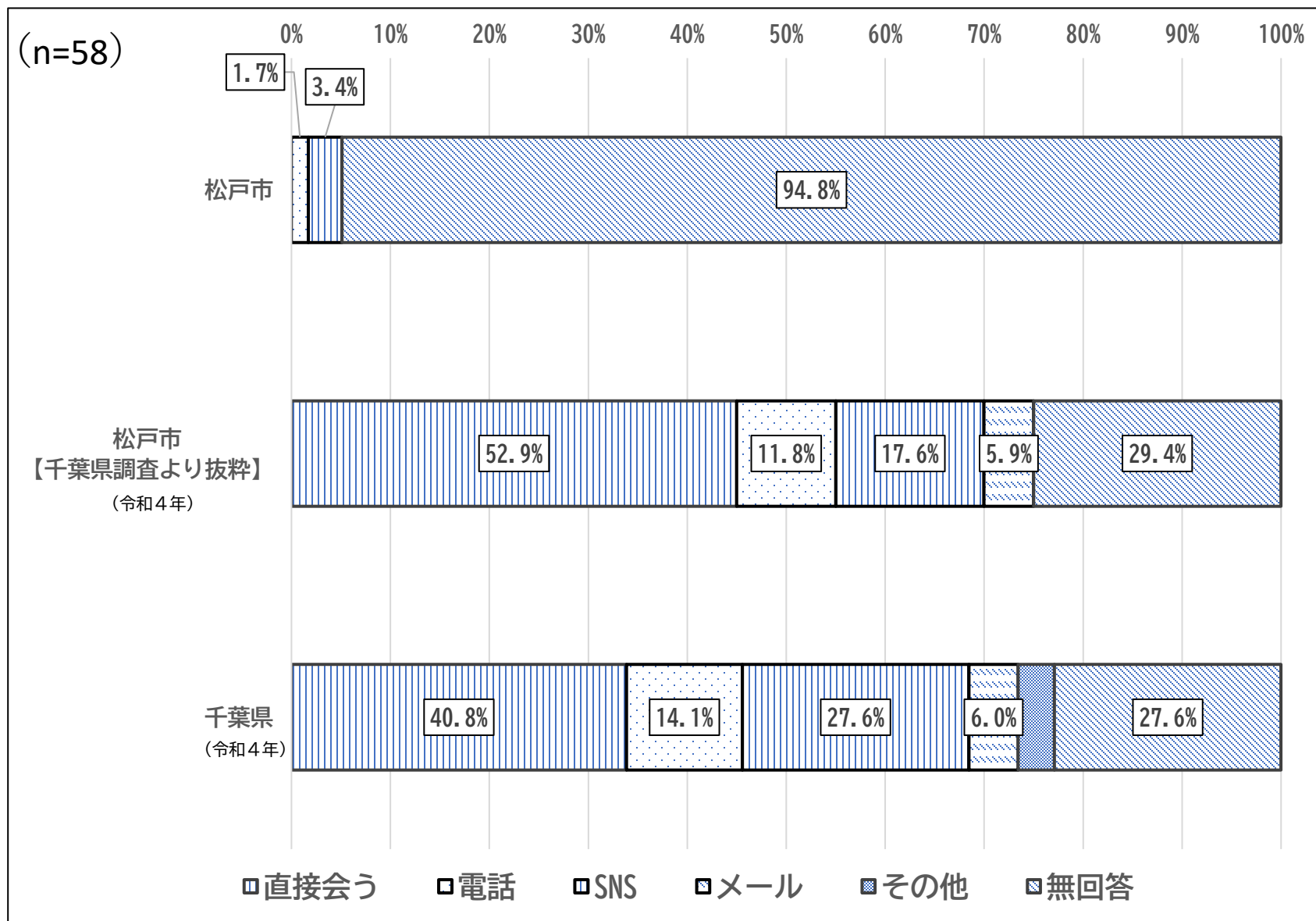


問9. あなたがお世話をしている家族のことや
悩みをヤングケアラーコーディネーターに相談したいですか。

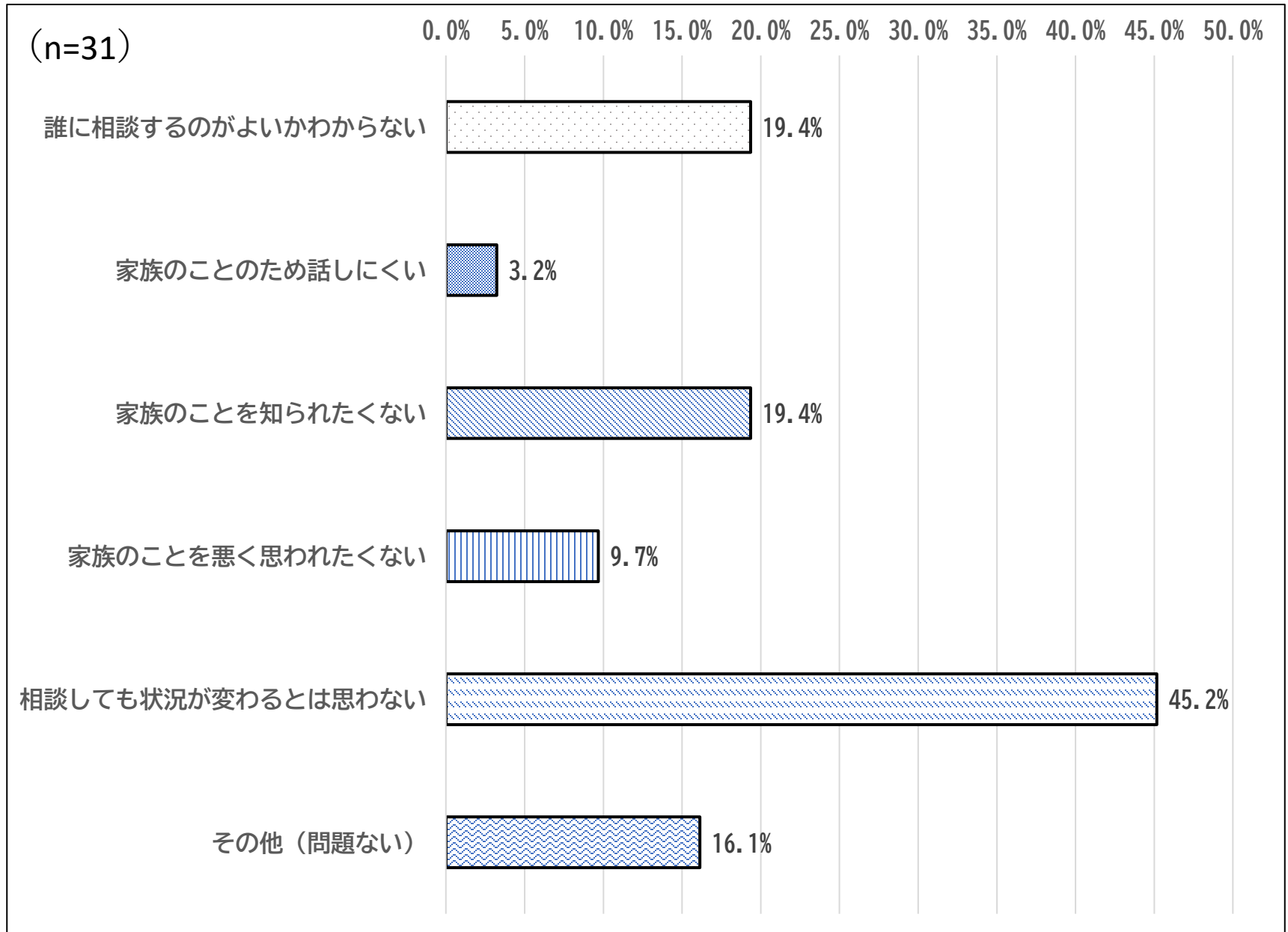
(n=58)



問10. 相談方法としてどのような方法を希望しますか。

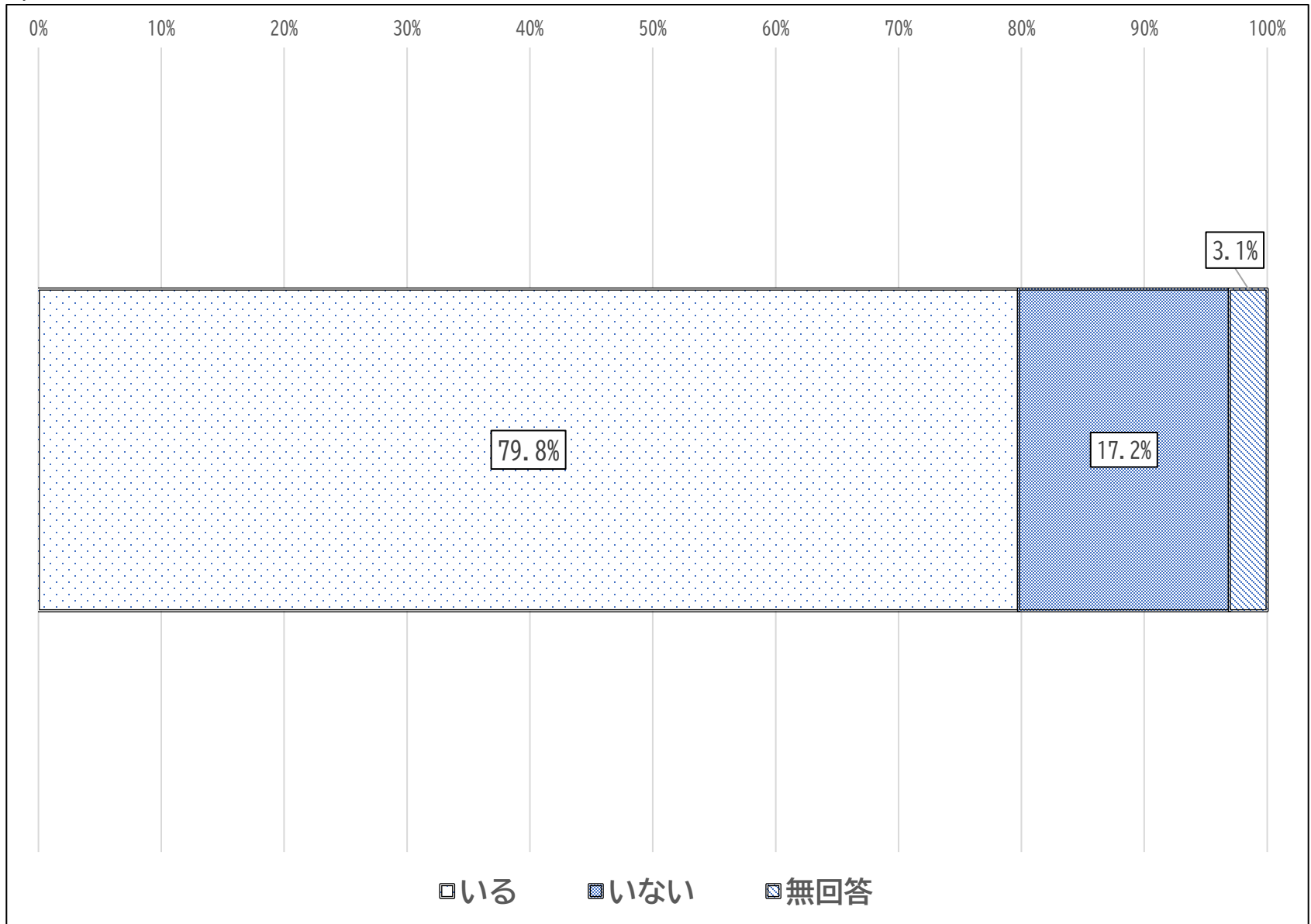


問1 2. 迷っている、相談したくない理由を教えてください。（複数回答）



問1 3. 今後、あなたが家族のことで困りごとができたときに
相談できそうなひとはいいますか。

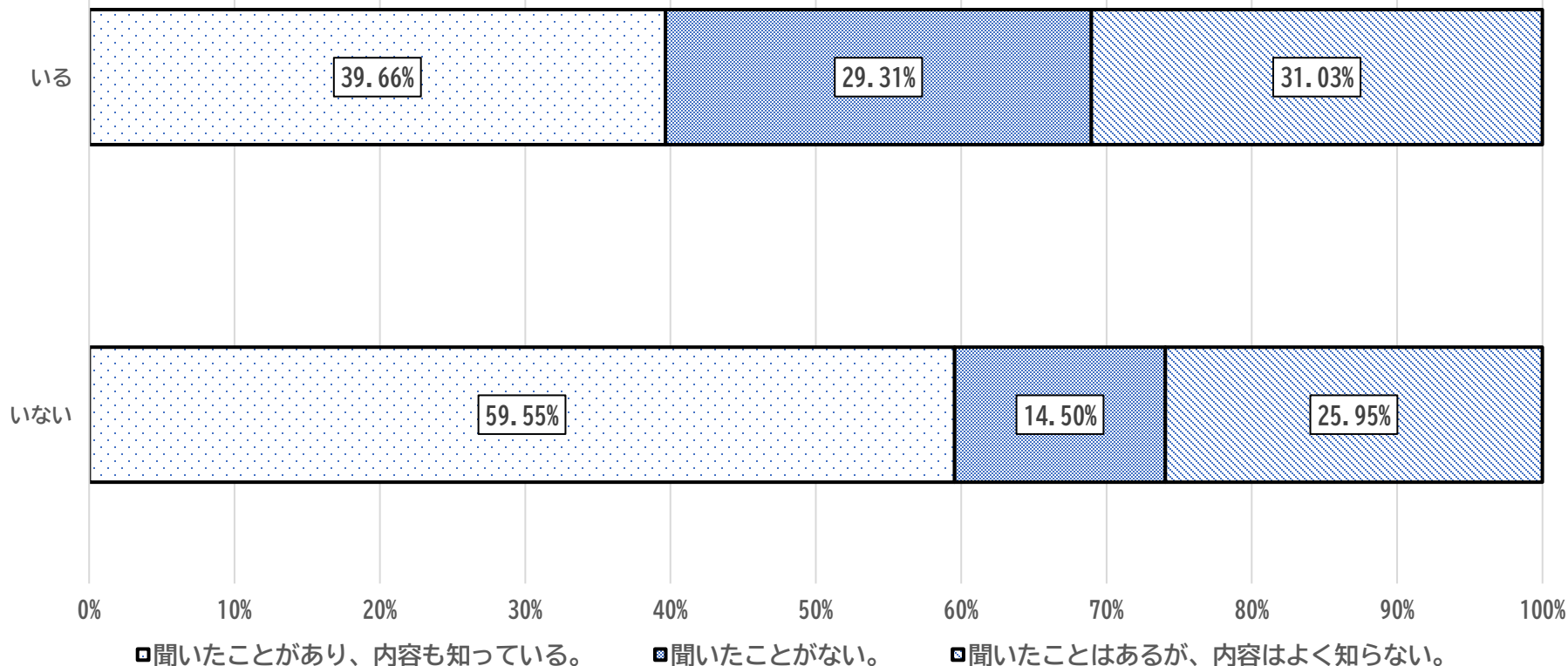
(n=1,403)



お世話の有無×ヤングケアラーの認知度

お世話をしている人がいる 58人
いない 1,345人

(n=1,403)

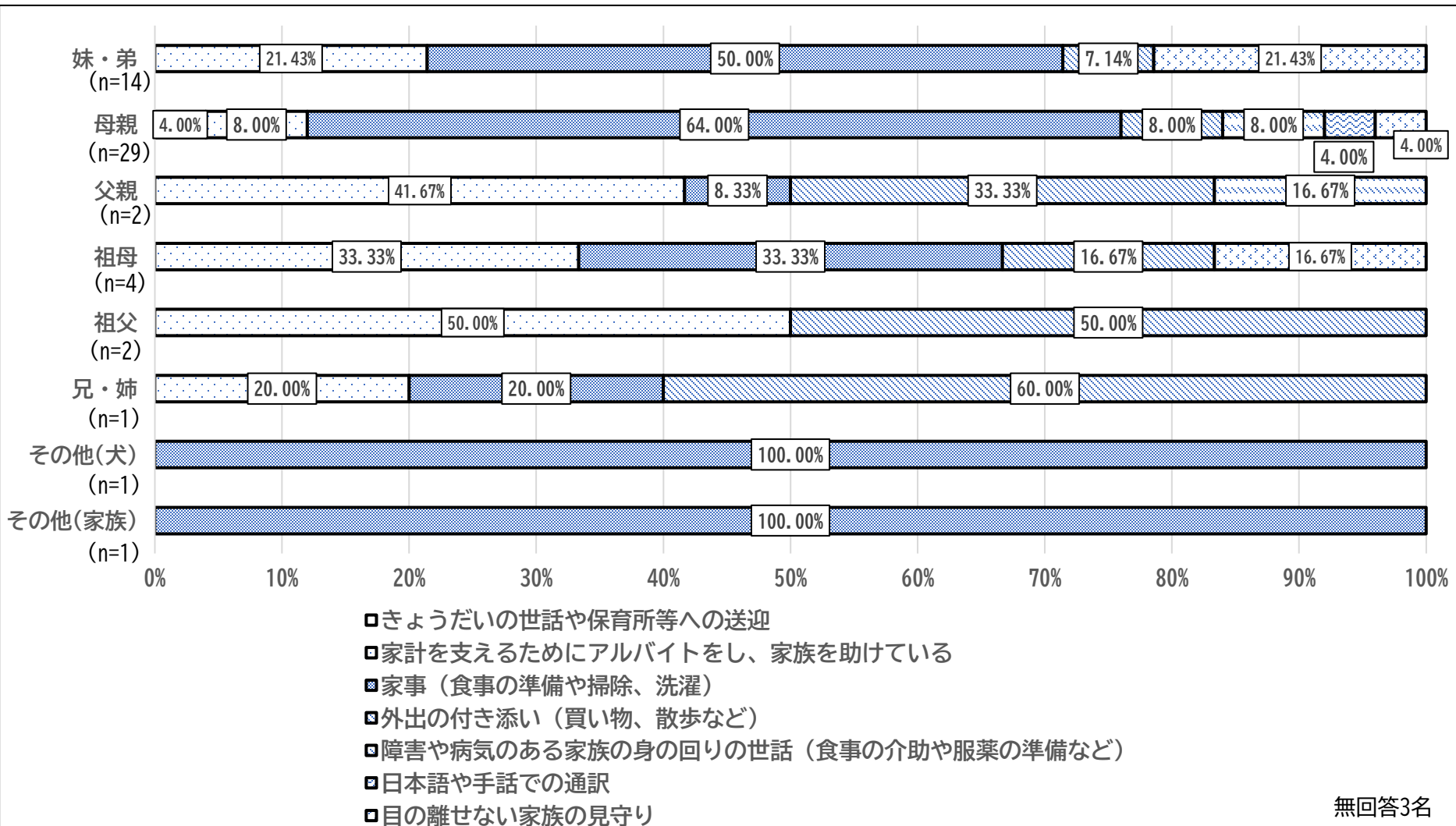


【考察】

お世話をしている者のうち「ヤングケアラーという言葉をこれまで聞いたことがあり、内容も知っている」割合は39.66%にとどまり、お世話をしていない者の割合59.55%と比較し低い結果となった。

このことから当事者であるにもかかわらず、自身の状況をヤングケアラーと認識していない可能性が示唆される。

お世話をしている対象×手伝いの内容

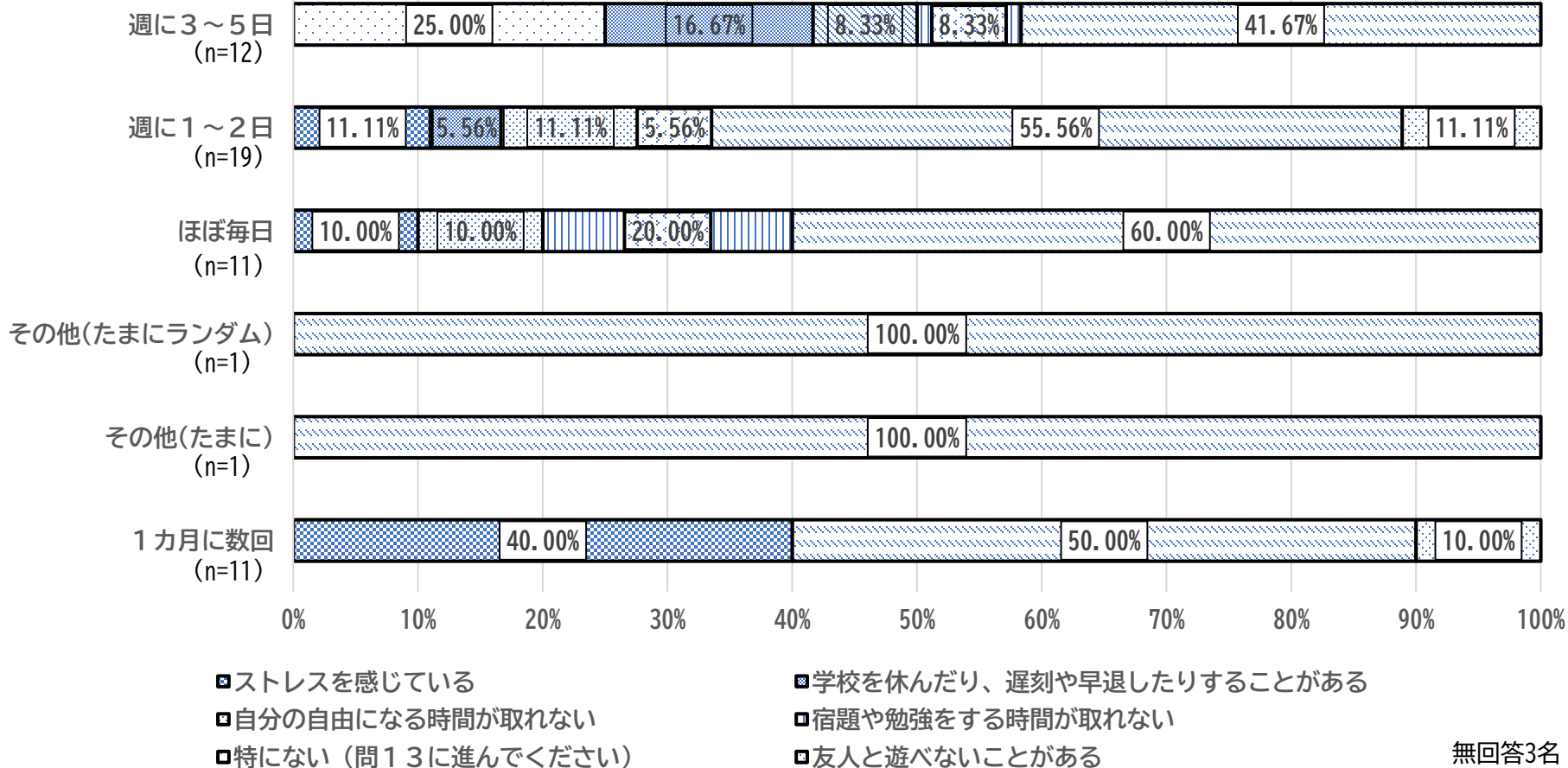


【考察】

家族の世話の対象としては「母親」が最も多く、母親のお世話をしているとの回答で多い家事は「食事の準備や掃除、洗濯」であった。家庭内の生活を支える日常的な家事を担っていることが示唆される。家庭内中心の家事になるため、外部からは見えにくく、日常の中に家事が取り込まれヤングケアラーとしての自覚が持ちにくい可能性がある。

お世話をしている頻度×抱える困りごとや悩み

(n=58)

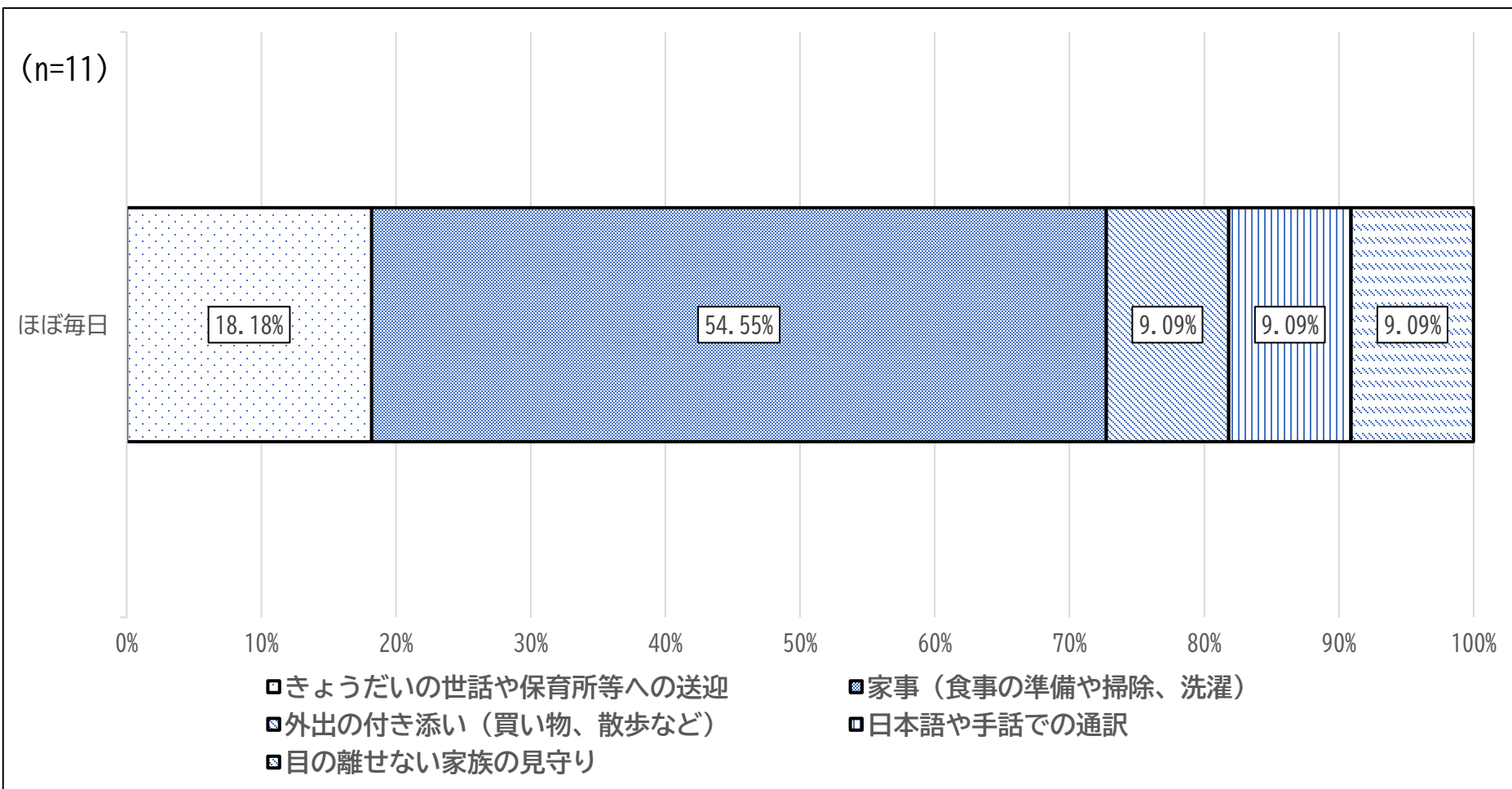


【考察】

お世話をしている頻度が高い者ほど「自分の時間が取れないこと」や「ストレス」を感じていることがわかった。

一方で、ほぼ毎日お世話をしている者でも困りや悩みは「特にない」との回答が最も多かった。日常的な家事等が自身の負担として認識していない可能性も示唆される。

「ほぼ毎日」お世話をしていると回答した者の状況



- ・「ほぼ毎日」お世話をしていると回答した者は11人いた。
- ・「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が54.55%と約半数を占めた。
- ・悩みを相談したことがあるものは3人であった。（ない4人無回答4人）
（相談相手は友だち、家族、学校の先生、スクールソーシャルワーカーであった）
- ・困っていることや悩みについては「特にない」が6人であったが、「ストレスを感じている」や「宿題や勉強をする時間が取れない」と回答する者もいた。

【アンケート調査結果の概要】 概要令和7年度 高校生の生活状況アンケート

■ヤングケアラーの認知度とお世話をしている人の有無

ヤングケアラーという言葉のをこれまで聞いたことがあり、内容も知っている者は58.7%であり、令和2年度及び3年度に実施した国の調査と令和4年度に千葉県が実施した調査と比較し認知度は高まりがみられた。

■お世話をしている対象とその種類

お世話をしている人がいると回答したのは58人であり、全体の4.1%であった。
対象としては「母親」が最も多く、行っているお世話や手伝いは「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」であった。

■お世話をしている頻度と悩み事

お世話をしていると回答した者のうち、頻度については週に1～2日が32.8%で最も多かった。ほぼ毎日と回答する者も19.0%いた。

お世話をしている頻度が高い者ほど「自分の時間が取れないこと」や「ストレス」を感じている一方で、ほぼ毎日お世話をしている者でも困りや悩みは「特にない」との回答が最も多かった。

また、ほぼ毎日お世話をしている者の半数が家事（食事の準備や掃除、洗濯）を行っており、日常的な家事により学業等に影響が生じる可能性がある。

■相談の有無や相談先

お世話をしていると回答した者のうち、相談したことがある者は17.2%であり、相談経験のない者は44.8%であった。

相談したことのある者は友だちや家族へ相談している割合が多い。

希望する相談方法については無回答が多く、この背景としては家族のことなので相談しづらいことや相談した先の見通しが立ちづらいことなどが要因として考えられる。

【アンケート調査から見えてきた主な課題と支援の方向性】

アンケート結果から 把握した実態

①認知度は過去の調査より上昇傾向である。

②お世話（手伝い）をしている対象は母親が多い

③お世話（手伝い）の内容は家事（食事の準備や掃除、洗濯）が多い

④頻度では「ほぼ毎日」と回答する者が19.0%いた

⑤困りや悩みは「特にない」との回答が最も多い。一方でお世話の頻度が高い者ほど「自分の時間が取れないこと」や「ストレス」を感じている。

⑥相談相手は友だちや家族がほとんどである

⑦相談経験のない者は44.8%であった。希望する相談方法に対する回答は多く得られなかった。

課題等

普及啓発を継続して行うことでヤングケアラーの認知度及び理解度を高めていく必要がある。

最も多く回答のあったお世話（手伝い）の内容が日常的な家事であったことから、外部から見えづらい事案が多い。

自分の時間が取れないことやストレスを感じていると回答している者もあり、学業等に影響を及ぼす可能性のある事業が一定数存在している。

相談する相手は友だちや家族がほとんどであり、相談する＝支援につながるわけではない。
また、希望する相談方法は無回答が多く、相談しやすい環境の整備やその周知、また相談方法及び相談後の支援の見える化が必要と考えられる。

支援の 方向性

継続した普及啓発活動の実施を行い、ヤングケアラーに対する知識の醸成を図る。

【手法】

- ・相談レター
- ・アンケート調査
- ・ポスターの掲示
- ・リーフレットの配架
- ・研修会の開催 等

相談方法や支援内容の周知、支援につながりやすい体制整備を行う。

【周知方法】

- ・松戸市ホームページで支援内容のパッケージ化を掲載
- ・千葉県（アトリエ）との連携推進 等